

デジタルコンテンツの新たな評価の地平を切り拓く 〜第24回「DIGITAL FRONTIER GRAND PRIX 2019」を開催

デジタルハリウッド株式会社 スクール事業部 味村 和哉
デジタルハリウッド株式会社 大学事業部 山口 豪

はじめに

近年わが国を含む世界の教育政策の焦点は「教員の視点に立った教育 (Teacher-Centered Education)」から「学生の視点に立った教育 (Student-Centered Education)」へと明確なシフト転換が起きている。そして、世界の多くの教育機関において、教員が学生に対して「何を教えたか」ではなく、学生が教員の授業等を通して「何を理解したか」、また、何ができるように「何を理解したか」の評価―学生の学習成果の評価―が極めて重視されるようになってきている。

このたび、デジタルハリウッドは、そうした「学習成果の重視」という世界的潮流を見極め、大学・大学院・専門学校合同の「入学式」と、前年度に卒業した学生の優秀な学習成果を評価し表彰する「優秀作品発表

会」を一つのイベントとして融合した第二回「DIGITAL FRONTIER GRAND PRIX (以下DF) 2019」を二〇一九年四月七日にEXシアター六本木にて開催した。

本稿では、デジタルハリウッドならではの特色あるDF2019の取組を以下で紹介する。

DFとは

「DF」とは、国内外のコンテンツ業界に多数のクリエイターを輩出するデジタルハリウッドが、設立当初より主催する伝統的なクリエイティブアワードである。

具体的には、四年制大学、大学院、専門学校、オンラインスクール、STUDIO、ジーブアカデミーなど、デジタルハリウッドが運営する教育機関に加え、国内外のデジタルハリウッドアカデミー導入校で制作されたCGアニメーション、ショートムービー、グ

ラフィックアート、Webコンテンツ、アプリコンテンツ、Webサービス、ビジネスプランなど、一〇〇〇点を超える作品の中から当日のノミネーターを決定し、アーティストやクリエイター、起業家として各分野の最前線で活躍する卒業生審査員による厳正な審査を経て、各年度の各賞とグランプリを決定するイベントが「DF」である。

DF2019のコンセプトと新たな試み

DF2019では、デジタルハリウッドが二〇一九年十月に二五周年という節目の年を迎えるにあわせ、「Grab everyone's heart with our work! To mark the 25th anniversary」というコンセプトを掲げ、他の国内の教育機関に先駆けて、優秀な卒業制作作品を発表する「アワード」と新入生を迎える「入学式」を融合し、一つのイベントとして

開催する新たな試みを行った。

(1) デジタルコンテンツの新たな評価の地平を切り拓く学習成果評価システムの導入―学習成果を可視化し、卒業制作の優秀作品を評価

DF2019では、デジタルコンテンツの新たな評価の地平を切り拓くべく、学生の卒業制作を「真に (Authentically)」評価するために有効的である新たな教育評価の枠組み―真正の評価論 (Authentic Assessment)―に基づき、ルーブリックを活用した学生の学習成果の評価システムを導入した。そのルー



図1 DF2019で重視する6つの学力の観点

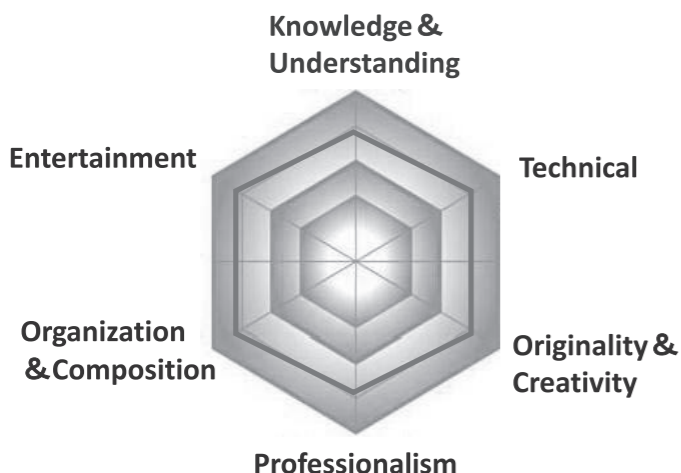


図2 レーダーチャートを用いた学習成果の可視化イメージ

ブリックの開発にあたっては、以下三つの内外の学力指針を参考に、デジタルハリウッド運営の各教育機関が掲げる方針を考慮の上、図1に示す六つの学力の観点を基本的な評価軸とした。

① 初等中等教育の「学習指導要領」による学力の三要素

② 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」で示された高等教育の学力指針である学士力

③ 全米大学・カレッジ協会のLEAP (Liberal Education and America's Promise) プロ

ジェクトで開発された教養教育の本質的学習成果 (Essential Learning Outcomes) として、DF2019に応募された一〇〇〇点以上の作品については、CG・映像、グラフィック、インタラクティブ、サービス等の幅広い分野にまたがっていることから、ルーブリックについても、部門ごとのルーブリックと、グランプリを選定するための共通ルーブリックの二種類を海外の教育機関の先行事例を参考に開発し、それらのルーブリックの概要をDF2019開催当日に紹介した。

さらに、卒業時の学習成果の客観的提示方法として近年世界の多くの教育機関で実践されている「ディプロマ・サブリメント」を参考に、受賞学生の学習成果の評価結果をルーブリックの評価の観点に基づき、図2のようなレーダーチャートを用いて可視化し、エンターテイメント性も取り入れる形で当日のDF2019にて表彰するという画期的な取組を行った(写真1)。

(2) 教育的意義を持つ新しい形式の入学式

DF2019では、「学生の視点に立ったDF2019」を創り上げるべく、在学生がDF2019のオープニングムービー制作、舞台演出、総合司会、作品紹介動画制作、学生作品展示・ブースの設置、受賞トロフィー制作、学生サークル紹介等といった当日の運営業務に正課外教育の一環として「DF共創スタッフ」の名称で参画し新入生を歓迎するとともに、優秀作品の審査にあたっては各業界の最前線で活躍している卒業生が審査員を務め「デジタルハリウッドらしさ」にこだわっ

た審査も追求した。

このように新入生を迎える「入学式」と優秀な卒業制作作品を発表する「アワード」を融合し、一つのイベントとして開催することで、新入生は先輩となる在学生からの歓待を受けるとともに、入学初日に卒業後における到達目標のレベルを認識することができる。また、そのことによって、「入学式でみための舞台に、いずれ自分も立ちたい！」といった新入生の学習意欲を刺激し、新入生の入学後の学業への更なるモチベーション向上に繋がるという好循環が生まれている。

こうしたDF2019は、教育的意義が極めて深いだけでなく、他の教育機関にはみられない、デジタルハリウッドの総力を結集したユニークかつ先駆的な新しい形式の入学式となっている。

(3)参加者からの声

DF2019の当日は、新入生、保護者、教員、協賛企業、教育関係者等の七〇〇名近い方々に来場いただき、参加者からは「入学式の既成概念を覆す画期的な入学式であった」、「Entertainment. It's Everything. /すべてをエンタテインメントにせよ!という校是に相応しい式典であった」、「先輩学生のハイクオリティな作品の数々を間近にみて学習意欲を刺激された」等の声が多数寄せられた。

新しい入学式の提唱

以上で述べたように、入学直後の新入生に対して、今や世界的潮流となっている学生の学習成果の評価を可視化して、みせることに

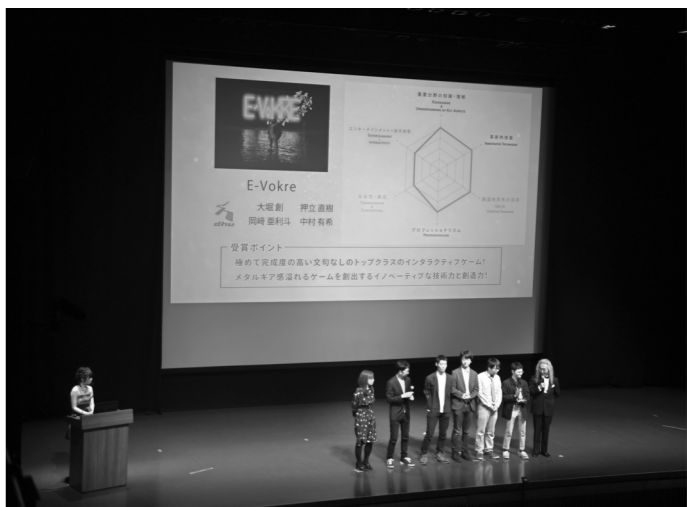


写真1 レーダーチャートを用いた受賞風景

よって、新入生の学習意欲を刺激するというDF2019の持つ教育的効果は極めて高いといえる。さらに、DF2019に、在学生が正課外教育の一環としてスタッフとして参画し、その審査を卒業生が行うという新しい入学式の形式は、教育機関の構成員のエンパワメント向上を創出するとともに、教育機関の組織活性化につながる理想的な入学式の形態であると考えられる。

未来を創造する先進的な教育機関として、デジタルハリウッドは、DF2019のフィナーレで、来場者に対して、こうした従来のイメージを刷新する入学式のコンセプト、すなわち、「入学式」と「優秀作品発表会」がセットになった教育的意義を持つ新しい入学



写真2 新しい入学式の提唱—DF2019フィナーレ—

式の形式を提唱した(写真2)。

おわりに

今後わが国の教育機関が入学式の在り方を検討する際に、本稿がそのための一助となるとともに、わが国の教育機関による個性的な入学式の取組みを今後推進する一つの契機となれば幸いである。

伝統を引き継ぎつつも、常に革新を求め続ける「DF」、そしてデジタルハリウッドの活動に今後ともご理解をいただき、多くの関係者の方々のお力添えをいただければ有難く、本イベントにご興味を持たれた方は、ぜひ、DF公式サイト (<https://www.dhw.co.jp/df/>) をご覧いただきたい。